

# 「反転授業」は小学生にも可能

## ●デジタル教科書教材協議会がシンポ



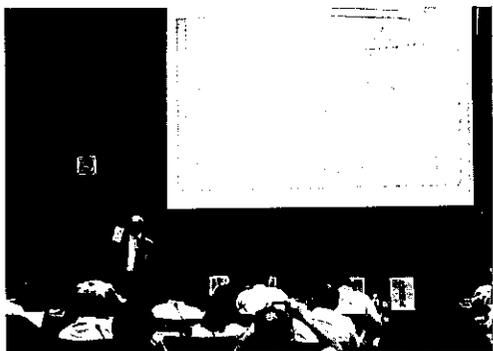
デジタル教科書教材協議会(DIT、会長・小宮山宏三菱総合研究所理事長)はこのほど、東京都文京区の東京大学でシンポジウム「小学生に反転授業は可能か？」を開催した。学校で知識を学ばせ、応用は家庭での復習に任せる従来の学習形態を「反転」させ、家庭で事前にビデオで学習してから学校の授業で応用に取り組む「反転学習」は大学を中心に広がっているが、高校以下でも実践例がある。シンポでは小学校で反転授業を実施している2人の実践事例を基に、約140人がその可能性を話し合った。

### 家庭学習とつなぎ授業を革新

初めに、佐賀県武雄市教育監を兼任する代田昭久同市立武内小学校長が発表した。武雄市では今年度から全小学生に計3153台のタブレット端末「iPad(アイパッド)」を貸与し、学校と企業が連携して作成した動画コンテンツを使って「スマイル学習(武雄式反転授業)」と銘打った反転授業を展開。全11小学校の算数(3年生以上)と理科(4年生以上)で5〜7月の3カ月間に約600回実施した。昨年10月に教育監に就任

し、機器の選定から携わった代田校長は当初、アイパッドの機能性に心配もあったというが「授業に」テクノロジーが入ったことが大きい。端末の優劣は関係ない」と指摘した。

武雄市が反転学習を「スマイル(SMILE)School Movies Innovate the Live Education Classroom)学習」と名付けているのは、単に親しみやすさだけではない。学校と家庭の学習を反転させるこ



端末を示しながら効果を強調する代田校長

とにとどまらず、学校では「協働的な問題解決能力」を育成するという革新的な意義を強調したいと述べた。学校と家庭がシームレス(継ぎ目の

ない状態)でつながる学習を構築することも目指していると言う。テクノロジーの導入によって教員は学習者の実態を正確に把握して「完全習得学習」が実践でき、児童生徒はより意欲的・主体的に授業に臨める。予習ができない子には放課後学習支援教室や学生ボランティアによる「武雄てらこや」などでサポートしている。

代田校長は「デジタル教育のノウハウを現場で蓄積しながら、教員が主体的になれる千載一遇のチャンスだ」と強調した。

続いて、佐藤靖泰宮城県富谷町立東向陽台小学校教諭が発表した。45分間のうち導入10分、展開25分、まとめ10分といった従来の授業展開では、課題の提示も協働での問題解決も適用問題に取り組むにも時間が足りず、宿題を課しても習熟や補填が中心になってしまう。そこで東北学院大学との共同研究により一昨年から算数で「明日の授業と連動した家庭学習」を目指した反転授業を実施することにしたという。児童は端末で佐藤教諭が録画した授業を見て30〜60分の家庭学習を行い、ノート作りを通して学習の前提を整えるとともに、分かったこと、分からなかったことを整理。授業では導入5分、展開30分、まとめ10分の展開でソロ、ペア、グループによる課題解決にも十分な時間を割いている。佐藤教諭はアンケートやテストの結果を基に、小学生に反転授業を行うことは「(2年間実施した)6年生では可能」と断言。今年度担任をしている5年生でも「可能性が高い印象」だとした。(渡辺敦司教育ジャーナリスト)